水の文化

安田喜憲「気候変動の文明史」

藤田紘一郎「異物を排除する衛生感」

川島博之「食糧危機は本当か」

小笠原敦「問われる科学者の感性」

沖大幹「100年後どうなる、どうする水文化」

近角真一「定期借地権と区分所有」

水の文化楽習実践取材「マイカーから公共交通機関へ」

北野大「お天道様のエネルギー」

古賀邦雄　水の文化書誌「明治が画いた夢」

水の文化 July 2007 No. 26

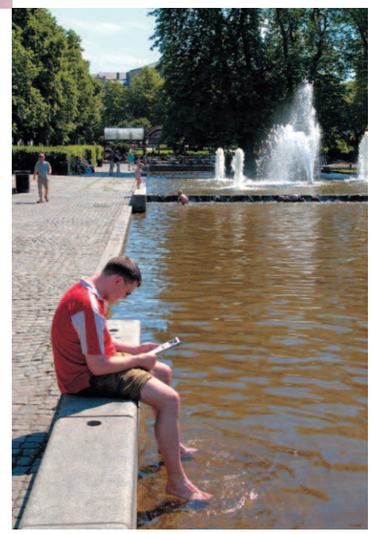
水の文化 2007 26

ミツカン 水の文化センター

表紙上：2107年には、私たちのひ孫世代が幸せに暮らしていてほしいと願う。
しかし、私たちが見ることのない100年後の世界も、地球の長い歴史の中ではほんの瞬きの間。
人類がこの100年間に与えてきたハイインパクトな影響を払拭するために、今、何を始めるべきだろうか。

表紙下：岩盤で覆われているノルウェーの大地は、地中に雨が染み込みにくいため、雨が降ると突如出現する滝に驚かされることがある。
もちろん豊富な雪解け水による滝も多く、フィヨルドの海に流れ込んだ雪解け水は、雲をつくり、雪や雨になって再び大地に降り注ぐ。
まさに、悠久の水循環の象徴である。

裏表紙上：森の緑や水に癒しを感じるのは理屈ではない。足許のちっぽけな苔にさえ、命が宿る。
この自然の大いなる力を100年後も持続させるために、クール（冷静）にホット（活気）な努力を惜しむべきではない。

裏表紙下左：2007年の6月、30度近い猛暑に見舞われたノルウェーの首都オスロ。
水辺で涼む姿を多く見かけたが、これも温暖化の影響なのだろうか。

右：温暖化で海面水位が上がることは、南の島だけではなく、
潮の干満の差が1mしかないフィヨルド地方の人たちにとっても大問題だ。